

令和5年度 事後評価
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名： 東南アジア地域における人口ベースがん統計収集体制構築支援を通じた
アジア特有がんの実態把握とリスク要因の解明に関する研究

研究開発代表者名： 松田 智大（国立がん研究センター）

本課題は、東南アジア諸国（フィリピン、ベトナム、カンボジアに加え、ミャンマー、ラオス、インドネシア）において科学的に信頼性の高いがん統計を可能にするネットワーク基盤を構築し、当該地域の疫学研究者の能力開発・向上に貢献した。今後、これらの構築されたネットワークを活用し、当該地域における発がん危険因子の解明に向けた共同研究を推進し、地域に特異的ながんの予防・治療に繋げることが期待できる。さらに、現地での研修をはじめ、若手研究者教育においても良い成果を上げた。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症や人事異動により、カンボジアでの事業を中断し、目標であるアジアにおける特定のがんと関連する危険因子の定量化、参加4か国のがん統計の高度な比較までは至らなかった。また、社会的ニーズに応えられる成果の導出については、今後の展開を期待したい。見方によっては日本が一方向的に支援しているだけのようにも見える国際的連携を今後どのように深化・発展させるのか、継続性や組織化に関する検討を続けていただきたい。